

未来志向の創造力

第1回伊佐市議会で隈元市長が平成24年度施政方針を発表

※紙面の都合により抜粋したものを掲載します

本年度は、伊佐市総合振興計画の具体的方針に沿った取組みを積極的に進め、市民との連携を施政の根幹に置き、市政運営に努めます。キーワードとして「未来志向の創造力」を掲げ、未来の伊佐市にいつでも住み続けたいと感じるまちにするために、絆・思いやりを持ち、清明な姿勢で創造力を高めていく取組みを進めます。

「市民だれもが活躍できる自治づくり」

「市民協働の体制づくり」を昨年引き続き重点施策として取り組みます。

校区コミュニティ協議会については、地域の素材や人材を活かした「まちづくり会議」を行い、地域が自ら考え、自らまちづくりに携わる体制づくりを支援します。

伊佐市総合振興計画実施計画により、政策・施策の実現に向けた取組みを進めるとともに、集中改革プランに基づく行財政改革も積極的に推進します。

また、市民の安全の確保と安定した財政運営のために、積極的な基金積立を行います。

急雇用創出事業等を行うことで雇用創出を図ります。

地域ブランド商品の確立では、地域資源を活用した農工商連携による新商品開発などに取組みます。

伊佐米の推進では、首都圏での販売や香港・マカオにおいて米の販路開拓を行い、市場のシェア確保に向けた取組みを進め、麴用米生産は、水田40haを予定して自立した生産体制が整うように支援します。

未来の伊佐の農業を担う新規就農者の確保に努め、農家の高齢化と担い手不足解消に努めます。

園芸振興では、ブランド野菜指定へ向けて、かぼちゃ・ゴボウ・金山ねぎの新規栽培農家と耕作面積拡大に対する支援や、降灰による作物被害対策を講じます。

畜産振興では、多頭飼育者の育成や規模拡大を支援するため、優良種雌牛保留導入事業、牛舎施設整備事業、家畜防疫対策事業を実施します。また、えびの市、人吉市と家畜伝染病の防疫業務に関する相互協定を結びましたので、今後連携を強化して防疫の初動体制の確立を図ります。

森林の整備では、間伐の実施や、伐採跡地の再造林、保安林の整備など各種事業を導入して健全な森林づくりに取り組みます。また、森林施業の集約化、路網と高性能

林業機械を組み合わせた効率的な作業等により、林業生産性の向上を図ります。

特用林産物では、たけのこ、しいたけなど地域特性を生かした産地づくりを進めます。

有害鳥獣による農林産物等の被害防止のため、計画的な有害鳥獣の駆除等を行うとともに、鳥獣処理施設を活用したシカ・イノシシ肉の消費拡大に努めます。

商工業では、市街地商店街活性化事業により、空き店舗を活用した新たな事業展開を支援するとともに、商工振興資金利子補給事業を拡充します。

観光では、観光資源の整備や積極的なPR活動を展開します。曾木の滝公園に駐車場と多目的トイレを整備します。

定住促進では、移住体験住宅を活用して伊佐市への移住PR活動を行います。また、定住促進空き家活用事業やツーリズム推進事業も活用します。

新たな取組みとして、「出会い応援事業」を企画し、若い世代の交流と定住促進を図ります。

「自然と調和した快適な生活空間づくり」

「道路・公共交通体系の整備」を昨年引き続き重点施策として取り組みます。

道路整備では、地域の経済対策

の観点から、公共工事を確保することで雇用対策にも配慮した事業を進めます。橋梁では、概略・詳細点検を踏まえ長寿命化修繕計画を策定します。

地域公共交通では、菱刈地区と曾木・針持地区に続き、布計線、平出水線、小川内線においても乗合タクシーを運行し、安全で効率的運行を図ります。

公営住宅では、長寿命化計画に基づき計画的に改修・建替等を行い、暮らしやすい住環境づくりに努めます。

木造住宅新築等の建築主や合併浄化槽・太陽光発電システム設置者に対して、雇用促進や業界育成・木材の利用促進の視点から助成します。

不法投棄の防止策として、パトロールや看板の設置などの防止対策を実施します。

上水道事業では、健全運営のもと計画的に事業の推進を図り、安全な良質の水を安定的に供給します。

暮らしの安全では、交通安全意識の啓発の取組みを進めるとともに、地域ぐるみの防犯、児童生徒の安全確保のための青パト隊の活動を支援します。

防災対策では、局地的な豪雨が



頻繁に起こるようになってい
ことから、伊佐市地域防災計画を見
直します。また、災害時要援護者
避難支援マニュアルに基づき、要
援護者名簿の更新、一人ひとりの
支援に対する個別計画を策定しま
す。

消防団では、消火活動に必要な
消防ポンプ自動車などを計画的に
更新し消防力を高めます。

災害発生に関する情報を「防災
メール」により、多くの市民に配
信できるように充実を図ります。

浸水対策として市道整備を行い、
地域住民の安全・安心の確保に努
めます。さらに、災害に強い中小
企業への転換を図るため、中小企
業が自ら行う防災対策を支援しま
す。

「ともに支えあう」

「もろく元気な人づくり」

「地域福祉の体制づくり」を昨
年に引き続き重点施策として取り
組みます。

社会福祉協議会を主体にして
「地域福祉活動計画」の策定を進
め、民生委員児童委員や福祉協
力員、福祉団体、ボランティア団
体、NPOなどの役割を明確にし、地
域福祉活動を推進します。

第5期介護保険事業計画の初年
度にあたり、在宅介護サービスの
充実と、施設系サービスの充実を
図ります。また、認知症サポーター

養成講座やホームヘルパー養成支
援、介護関係事業者の研修などの
充実を図ります。

高齢者が地域で安心して暮らす
ために、地域包括ケア体制を整備
します。

元気な高齢者が地域社会の担い
手になるよう、シルバー人材セン
ターの活動を支援します。

健康づくりでは、疾病の予防や
改善を重視したケア体制や環境づ
くりを推進します。成人保健の疾
病予防では、特定健診や特定保健
指導、がん検診などを実施し、母
子保健事業では、乳幼児健康診査
妊婦健康診査、健康相談などを実
施します。

感染症予防では、ヒブワクチン
接種及び小児用肺炎球菌ワクチン
接種、子宮頸がん予防ワクチン接
種を昨年に引き続き全額公費負担
で実施します。

地域医療体制の充実を図るため
在宅当番医制事業や病院群輪番制
病院運営事業の実施と、北薩病院
の医師確保に向けた要望活動等を
引き続き行います。さらに、ドク
ターヘリコプターの安全な運航が
図られるように搬送体制の充実を
図ります。

子育て支援については、子ども
を安心して生み育てられる「日本
一子育てにやさしいまち」を目指
します。伊佐市トータルサポート
センターを核として、地域の医療・

福祉・保健・教育分野と連携を図
りながら相談支援体制を強化しま
す。

子ども発達支援センター「たん
ぽぽ」の療育体制の充実により、
子どもの発達や子育ての悩みの解
消に努めます。

働きながら安心して子育てがで
きるように、病児病後児保育事業
延長保育事業、休日保育事業、学
童クラブなどの子育て支援体制の
充実を図ります。

また、子どもの疾病の早期発見
と早期治療を促進し、健康の保持
増進を図るために18歳以下の子ど
も医療費を助成します。
障がい児の放課後生活や長期休
みの生活の充実を図るために、子
どもと家庭の支援体制を構築しま
す。

「地域と学び」

未来に生かす人づくり

地域で育んだ感性や生きる力を
十分に発揮し、自らの人生を切り
開いていくことのできる人づくり、
社会に役立つ人づくりに努めます。
教職員の指導に当たる指導主事
と特別支援教育支援員の増員を図
り、児童・生徒の学力向上や規範
意識の向上を図ります。

学校施設は、施設の老朽化対策
及び児童生徒数に応じた計画的な
教育環境の整備を図ります。

山野西小学校跡地は、地域住民

の方々と一緒にになって
地域の活性化が図られるような方
策を早急に検討します。

中学校再編は、中学校再編準備
委員会を設置し、27年度に新設す
る中学校の円滑な開校に向けて取
り組みます。

大口高校、伊佐農林高校、大口
明光学園の存続・発展を図るため
「魅力ある高校づくり」事業を昨
年に引き続き展開します。

学校給食センターでは、衛生管
理の徹底を図り、引き続き地産地
消を進めながら、安全で栄養バラ
ンスのとれたおいしい給食を、市
内全小中学校等へ提供するととも
に、食育の推進に努めます。

生涯学習の振興では、校区コ
ミュニティ協議会や市民グルー
プ等との連携を図り、市民の生きが
いづくりを推進します。

青少年の健全育成では、山坂達
者な人材を育てるために、学校、
家庭、地域が一体となった地域活
動や体験活動を推進します。

歴史・伝統文化の継承と活用で
は、郷土の歴史を学び、愛着を持
てるよう郷土学習と伝統文化保存
活動を推進します。

文化芸術の振興では、市民が身
近なところで文化芸術に触れる機
会の提供や各種団体の活動状況な
どの情報を発信し、自主的な文化
芸術活動を行う市民や団体を支援



します。

スポーツの推進では、さわやか
スポーツ推進事業やスポーツ出前
教室を実施し、市民がスポーツに
取り組むきっかけを作ります。

結びに

二つの自治体が合併して3年が
経過しました。一体化を図りなが
ら進めてきた施策が着実に成果を
あげています。この一年で完全な
ものにし、次なる時代の基盤とな
り、推進していく力となるように、
本年度のキーワードを「未来志向
の創造力」としました。

伊佐はもともと風土・人情とし
て公共心のある地域です。合併に
より一体化を図るとともに、各コ
ミュニティやNPO活動の活性化
を促すことで、未来を志向した創
造力が働き、さらなる向上のエネ
ルギーとなります。20年から30年
先の未来を予見して創造力を発揮
する未来志向が求められています。
私を先頭に職員全員が一丸とな
って未来志向の創造力の源とな
るよう努めます。